



「お金や仕事、経済」ではなく、「家族、いのち」を大切に生きた。国や政治を思い悩むのではなく、今ある自分の家族、地域といった小さな暮らしを大切にしていきたいなと考えるようになった。

豊かな山と海がある丹後には自然との共生など独自の文化があり、素朴な温かい暮らしがある。そしてこの地を愛し、盛り上げていこうとする人と人がつながり、新しい風が吹く。

丹後半島の上世屋で活動しているセヤノコゆみえさんが誘ってくれ、親子5組14人で丹後の夏を満喫してきました。



わかかの会

自分たちの生き方探求のきっかけをこどもが作ってくれる。子育てを通じて人とつながり、いのちと自然とつながろう。わになろう。生きるものすべてが幸せでありますように。

発行：わかかの会 岡田 喜美子 wakkanokai@gmail.com

旅することで、出会いがあり、つながり、子どもも大人も育ちあう。

参加してどうでしたか？

「うわぁ、日本昔話でみた景色！となりのとどろのおばあちゃんちみたい！」
京都市内でずっと育った私には、初めて目にする心躍る景色でした。釜でご飯を炊き、底についたすすを見て、まっくろくろすけってこれなんだ！と気付いてうれしくなったり。小学生の息子は自分達で起こした火で炊いた白いご飯のおいしさが、忘れられない様子。貴重な経験をさせて頂いたと感謝しています。

濱田裕子(小学3年、5歳の息子と参加)

海水浴、川で魚掴み、山での野菜収穫など食料調達から自炊まで、自然観察に採取、夜の花火、薪のお風呂に枕投げにお友達と布団を並べ雑魚寝、ツリークライミングにピザ作りetc..もうこれ以上の究極の夏休みなんて想像つきませんよね！大自然の中でなんて贅沢な時間。上世屋では利便性に溢れた現代社会に順化してしまった私や息子にとって、先人や村民の皆さんから学ぶことばかりの刺激のある旅でした。

金丸真弓(小学3年の息子と参加)

今回一番印象的だったのは、この旅の登場人物。釣り名人のたけちゃん、この旅をコーディネートしてくれたゆみえさん、お料理上手のマミーさん、そばの種まきを教えてくれた井之本さんなど、沢山の人の支えられた旅だった。みな共通して、自分の人生を、選り決断して歩んでいる姿に、なんだか勇気づけられた。優しい笑顔の後ろに凛として存在する価値観が皆さんのたたずまいや笑顔からにじみ出ている。そういう人達が集って、山の上の厳しくも美しい楽園、上世屋に集っている空気が印象的だった。

関恵(小学1年の娘、2歳の息子と参加)

この旅のコーディネーター

自然と共に暮らせる人間になりたい！自然の素晴らしさを人に伝えられる人間になりたい！そんな憧れから丹後移住を決意。この集落に子どもの声をもどすぞ！と子どもたちが上世屋の自然の中で過ごすイベントも企画。この旅では上世屋の村の人や丹後の楽しい人達との素敵な出会いを作ってくれました。丹後、上世屋へ行ってみよう、出会いの旅をしたい方、まずはゆみえさんとなつなってみて。

セヤノコ：<http://seyanoco.jimdo.com>

丹後の人々となつなりたい人は
毎年3月に行われるイベント「ココ丹後」へ
<http://kokotango.jimdo.com>



セヤノコ代表 小山有美恵さん



上世屋ってどんなところ？

丹後半島の山の中、棚田と伝統的な笹葺き民家が織りなすのどかな里山は「日本の里地里山30選」に選定。子どもがいなくなって20年あまりが経ち、今では14世帯しかない限界集落で、村人全員が大家族のように、助け合い、分け合うのがあたりまえ。昔から大切に守り継がれた手作りの保存食、藤織に代表される織物などの技と文化が息づいている。



合力の家



合力の家ってどんなところ？

合力とはこうりよくと読み、丹後弁で手助けを意味する。のべ860人が手助け古民家を再生した。囲炉裏、オクドサン、まきのお風呂などの火の扱いなど世屋人の暮らしが体験できる。棚田再生など地域が元気に持続できる拠点となることを目指す。オーナーの井之本さんは丹後の郷土史などの研究をしていたが、もっと地についた動きを作り出そうと移住した。

今回の旅の舞台「丹後」

- 京都市内から京都縦貫自動車道「与謝天橋立IC」まで約2時間半
- 京都駅からKTR「岩滝口駅」まで特急で約2時間
そこから上世屋まで車で約20分
伊根まで車で約30分



丹後半島は
京都府北部の
自然豊かなところ

おすすめのところと人



⑤カフェ MogMog / 美香さん

丹後の食材たち、作り手と土地のあたたかさをお皿に



⑥スタジオき / 友香理さん

人とつながる、ほっこり楽しいイベントやってるよ

⑦まんまる食堂 / 若菜さん

自分ちの畑で採れた野菜で作ったおばんざいごはん

